

修士論文の体裁について

今年度より pdf ファイルによる修士論文提出へと移行するのを機に、修士論文体裁のガイドラインを設ける。ガイドラインに従って修士論文の構成・体裁を統一することで、修士論文に必要な項目・内容が確実に盛り込まれると同時に、修士論文審査員や論文読者の読み易さを向上させることができるので、以下に従って修士論文を作成すること。

- (1) 用紙は A4 縦置きとし、横書きのシングルカラムとする。
- (2) 論文は、表紙、要旨、目次、本文、謝辞、参考文献から構成され、本文には一般的な学術論文に必要と考えられる内容（イントロダクション、データや手法の説明、結果、考察）が適切な章立てにより含まれること。
- (3) 和文の場合は「MS 明朝」体 12 ポイント程度、英文の場合は「Times」12 ポイント程度、あるいはこれらと同等のフォントを使用。
- (4) 行間は 1 行あけ（single spacing）、余白は、上下 3 cm、左右 3 cm 程度とること。
- (5) 図や表は、最初にそれらを引用する本文中に配置すること。もしこれができない場合には、文章と図は別のページとなっても良いが、引用される箇所に続く最も近いページとして挿入すること。図が非常に多い場合には、各章の最後にまとめても良い。ただし、全ての図や表を論文の最後にまとめて掲載するスタイルはとらないこと。図表には、必ずキャプションを付けること。
- (6) 本文が和文の場合には英文要旨、本文が英文の場合には和文要旨も作成すること。
- (7) 本文には、ページ番号を各ページの中央下部に表示すること。
- (8) 参考文献のスタイルは指定しないが、著者名、論文タイトル、発行年、雑誌名、巻、ページ、あるいは doi 番号など必要情報が含まれており、修士論文内では統一されたフォーマットとなっていること。本文中では、著者名と年号によって参考文献を引用すること。

2006 年（平成 18 年）11 月 28 日
地球惑星科学専攻

表紙の例日本語

修士論文

(MS 明朝、16 ポイント、ボールド、中央揃え)

地球惑星科学専攻の修士論文の体裁について

(MS 明朝、18 ポイント、ボールド、中央揃え)

地惑 太郎

東京大学大学院理学系研究科

地球惑星科学専攻

大気海洋科学大講座

平成19年2月28日

(MS 明朝、16 ポイント、ボールド、中央揃え)

本文の例日本語

要 旨 (MS 明朝、14 ポイント、ボールド)

これは、東京大学理学系研究科地球惑星科学専攻の修士論文の体裁をまとめたものです。修士論文は、このスタイルに従って作成するようにしてください。

(MS 明朝、12 ポイント)

----- Page break -----

Abstract (Times, 14 point, bold)

※本文が和文の場合でも英文要旨を作成する。

This is an example of abstract for master thesis submitted at Department of Earth and Planetary Science, Graduate School of Earth Science, the University of Tokyo.

Please follow the style of this example. (Times, 12 point)

----- Page break -----

目 次

1. はじめに (イントロダクション)	1
2. 観測・実験・調査・観察方法	5
3. 結果.....	12
3.1. 実験 A	12
3.2. 実験 B	18
3.3. 実験 C	25
4. 考察.....	30
5. まとめ	35
謝辞.....	37
引用文献.....	38

----- Page break -----

1. はじめに

ここにイントロダクションを書く。研究の目的を、関連分野の現状・問題点を明確にした上で記す。

2. 方法

ここに観測（実験・野外調査・観察・シミュレーション等）の方法、研究対象（試料や地域など）を選択した理由などを記す。

3. 結果

3.1. 実験（観測・調査・観察）A

実験Aの結果は、 ….

3.2. 実験（観測・調査・観察）B

実験Bの結果は ….

3.3. 実験（観測・調査・観察）C

実験Cの結果は ….

4. 考察

ここに結果に対する考察などを書く ….

5. 結論（まとめ）

ここに結論、まとめを書く ….

謝辞

ここに謝辞を記す ….

引用文献

McKenzie, D., 1984. The generation and compaction of partially molten rock. *Jour. Petrol.* **25**, 713-765.

Sleep, N. H., 1969. Sensitivity of heat flow and gravity to the mechanism of sea-floor spreading. *Jour. Geophys. Res.*, **74**, 542-549.

表紙の例英語

Master Thesis

(Times, 16 point, bold face, center aligned)

Writing Master thesis in Earth & Planetary Science

(Times, 18 point, bold face, center aligned)

Taro Chikyu

Atmospheric and Oceanic Science Group

Department of Earth & Planetary Science

Graduate School of Science, The Univeristy of Tokyo

February, 28, 2007

(Times, 16 point, bold face, center aligned)

本文の例英語

Abstract (Times, 14 point, bold)

This is an example of abstract for master thesis submitted at Department of Earth and Planetary Science, Graduate School of Earth Science, the University of Tokyo. Please follow the style of this example. (Times, 12 point)

----- Page break -----

要 旨 (MS 明朝、14 ポイント、ボールド)

※本文が和文の場合でも英文要旨を作成する。

これは、東京大学理学系研究科地球惑星科学専攻の修士論文の体裁をまとめたものです。修士論文は、このスタイルに従って作成するようにしてください。
(MS 明朝、12 ポイント)

----- Page break -----

Contents

1. Introduction	1
2. Method	5
3. Results.....	12
3.1. Experiment A	12
3.2. Experiment B	18
3.3. Experiment C	25
4. Discussion	30
5. Conclusions	35
Acknowledgements	37
References	38

----- Page break -----

1. Introduction

This is an introduction. Please write here the background of your study, current status and problems of the related science field, and the purpose of this master thesis.

2. Method

Please write here approaches that were adopted in your study for the master thesis including criteria for samples and field selections.

3. Results

3.1. Experiment A

Results of experiment A are

3.2. Experiment B

Results of experiment B are

3.3. Experiment C

Results of experiment C are

4. Discussion

Discussion based on the above results is written here

5. Conclusions

Conclusion or summary is written here

Acknowledgements

Acknowledgements are written here....

References

- McKenzie, D., 1984. The generation and compaction of partially molten rock. *Jour. Petrol.* **25**, 713-765.
- Sleep, N. H., 1969. Sensitivity of heat flow and gravity to the mechanism of sea-floor spreading. *Jour. Geophys. Res.*, **74**, 542-549.